



第 485 号 平成30年12月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

T E L (075) 256-0351

F A X (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

第49回全国学校医大会での運動器検診の報告から

会 長 林 鐘 声

第2分科会(からだ・こころ(2))の運動器検診の発表7題から4題を取り上げ報告します。

(1)京都市は平成28年と30年の結果の比較を中心に報告しました。平成30年の有所見者率は脊柱のゆがみ4.1%(平成28年:4.4%),四肢10.1%(13.1%),専門医受診指示率は脊柱のゆがみ1.1%(0.9%),四肢0.9%(1.6%)でした。

四肢の専門医受診指示率の減少理由は、有所見者率の減少のみならず、症状の軽微な例が多くなったためであり、運動器検診導入の1つの成果と報告しました。専門医受診率は29.2%(23.5%)とやや上昇したものの、中学生25.3%(20.4%),高校生15.9%(9.0%)とまだ低く、受診率向上が望まれるところでした。

(2)姫路市からの報告のうち、脊柱側弯に関するものを紹介します。従来より、整形外科医がモアレ検査による脊柱側弯検診を行ってきた歴史があります。市立中学35校の中1の生徒(約5,000人)に学校医が行った脊柱検査とは別に、30人の整形外科医が各々学校へ出向いて脊柱検査を実施してきました。平成29年では、学校医による専門医受診指示率1.7%(京都市では1.3~1.4%),整形外科医のそれは7.0%であり、学校医はコブ角10°以上を10人しか検出していないのに対し、整形外科医は87人と大きな差がありました。しかも、学校医は25°以上の例を検出していないのに対し、整形外科医は11人、更に40°以上の例も3人見つけたということでした。即ち、学校医は25°以上の例を見落していたということです。前屈テストの肋骨隆起が5°~7°の差でコブ角20°に相当とされていますので、10°少しの軽症例は学校医が見逃すかも知れないこと、一方でモアレ検査を通じて熟練を積んだ整形外科医の検出精度の高いことは理解できますが、検出数の隔りは余りにも大きいようです。更に、学校医が25°以上の例を全く検出できなかったことは俄かに信じ難いほど驚きです。姫路市では脊柱検査時に女子の体操服を着衣を可とし

ていることから、学校医の検査手技に問題があったのは否定できませんが、検証をして頂きたいものです。

(3)平成29年の整形外科による精検結果のアンケート調査の報告を、日本臨床整形外科医会会長の新井貞男先生が行いました。平成28年の10,256人の報告に対して、平成29年は5,707人と少なくなっていました。受診勧告理由は、脊柱側弯の疑い72.5%,腰の痛み10.9%,しゃがみ込み不可12.2%,上肢の異常2.2%と平成28年と変わらない傾向を示し、診断結果は異常なし41.6%,脊柱側弯42.0%,下肢の拘縮7.3%,オスグッド病・ジャパー膝2.3%とこれも変化なく、京都市の診断結果とも近似していました。受診理由から想定されない疾患が見つかった例として、側弯の疑いやしゃがみ込み不可からペルテス病、大腿骨頭すべり症や発育性股関節形成異常があり、注意すべきことでした。また、脊柱側弯症の過半数はコブ角10°未満が占めていたことに対しては、見落しを避けようと過剰にチェックされていたのではという見解を示し、姫路市の報告とは真逆の評価となっていました。京都市でも整形外科医からコブ角の報告を出してもらいたいところです。

(4)スクールトレーナー制度導入のひな形として、整形外科医の指導のもと理学療法士が月に1回、学校を訪問してストレッチ指導した小集団での試みが島根大学から紹介されました。中学で週3回体育の授業にストレッチを取り入れた所では、明らかな効果が認められ、意欲的な教師の存在が不可欠のようでした。この試みに対して新井先生は、事故が生じた時の責任問題から、理学療法士の学校への参入に反対との見解を示しました。

運動器検診導入から3年経過して、内科校医が行う検診として、それなりの成果が出るようになった今、これからは整形外科医の出番ではないでしょうか。勿論、整形外科医が運動器検診を担当すべしということではなく、検診の側面を支える形で学校現

場で活動すべきという意味です。専門医受診率の向上、それを指示される児童生徒数を減らしていくことが、これからの課題となっているので、ストレッチ指導とともに運動器の障害やケアへの指導を単回でなく頻回に行って欲しいということです。

整形外科医にマンパワーの問題があるなら、その

指導のもとで理学療法士が代りに行うことを想定していたところ、あっさりと否定する見解が出たのは驚きでした。事故とはどのようなものかも理解が及ばない。この検診を牽引してきた団体、あるいはその周辺から、いずれは新しい取り組みの提示があるのを期待したい。

第49回 全国学校保健・学校医大会 特別講演

福西小学校医 奥村正治

学校医大会の一日の締め括り、最後の話題は特別講演である。毎回、この特別講演は直接学校医に関係する話題ではありません。今回は「明治維新を成し遂げた薩摩の教育」という演題である。本年はNHKの大河ドラマの「西郷（セゴ）どん」で鹿児島中、「セゴドン」「セゴドン」一色である。この特別講演もしかり。講演は、歴史家であり作家でもある加来耕三氏である。加来氏はラジオ・テレビ等々にも多く出演、関係しておられ、また、出版物も多く、ご存知の方々も多かったと思います。

本年は明治維新150周年の節目でもあり、維新はいつからが維新でしょう？という話題から始まりました。鎖国をしていた江戸時代は各地に藩が置かれ、一応一つの国の様に見えていましたが、藩の近くに何か事が起っても、他の藩は知らん顔をし、日本（江戸に徳川家が座っていましたが）として何か動こうという動きはありませんでした。それでは外国よりの侵入はふせげず、日本全土で守ろうとする動きが、「日本を作る」という維新であると。しかるに維新の始まりは150年を越えていると言うのが加来氏の考えである。

歴史とは、現在の生活に活用してはじめて歴史が生きてくるのであり、「立ち止まって考える」「疑問

に思ってみる」「なぜだろう？」が歴史であると。「本当はどうだったのか？」「奇跡がそうそう有るわけではなく期待しない」「数字は大切にし、出来るだけ正しく表わす」とも言っておられた。

主題の西郷さんと教育の話であるが、今の大河ドラマは、あくまでドラマであり、間違っただけで、信用してはだめだと。この大河ドラマの間違いだらけの話題は、1時間の講演の中で何回出て来たか？「本当はどうだったのか？」と通じている。

西郷さんは、島津藩主の島津斉彬の家来であったが、家来の間中、給与の昇給はなく、位も低く、藩主に忠誠を誓う家臣であった様で、斉彬がいなかったら、田舎侍で一生を終らせたと思われる。

薩摩の地域では勇気を重んじ、弱者を守り、上の者が下の者に教えるという三本柱があり、西郷さんはこの教えを忠実に守った生き様であったと。斉彬の死後も忠誠の心は変わらず、西郷さんの命を賭けるべき対象が、勇気を重んじ、弱者を守りの気持ちより、薩摩藩一色から日本国全体へと引き上げられて行ってしまう、新しい明治政府とはだが合わないと言うか、薩摩の教育からも西郷さんも首をつこまなくてはならず、内乱の形で西南戦争という歴史が生まれたようである。

第49回 全国学校保健・学校医大会 第1分科会

養徳小学校医 川勝秀一

京都からは第一日赤の木崎善郎先生が「京都市学校検尿（尿糖）13年のまとめと今後の課題」を発表されました。京都市学校検尿マニュアルを説明し、最終的に1型糖尿病14名（小学生11名、中学生2名、不明1名）2型糖尿病36名（小学生8名、中学生22名、高校生2名、支援学校1名、不明3名）が新たに発見されたことを報告されました。さらに初めて尿糖を指摘されてから糖尿病と診断されるまで5年

を要した症例を示され、今後の問題点として、三次検尿の受検率の低さ、腎性糖尿と診断された例の取り扱い、至急精検の方法、早朝尿でよいのか、などを指摘されました。

検尿関連としては、東京都大田区から導入期の話題、愛知県一宮市から発見例の時系列の追跡の必要性が報告されていました。

成長曲線に関して島根県出雲市では判定委員会を

作って、身長系の異常と体重計の異常を経過観察・学校医受診・専門医受診に振り分ける体制をとっているとのことでした。徳島県医師会からは低身長児にクリニックで対応した経験を報告されていました。神奈川県川崎市からは中高一貫校に薬の服薬状況と内容に関する理解度の調査結果が報告されました。

心臓検診については、富山市医師会からQT計測ソフトQTD-2の有用性が、大阪府医師会から有所見児に添付する保護者への所見説明文書作成の試

みが、東京都医師会からは新たに発見された症例の中に、運動制限が必要なものが0.02%程度含まれることから、早期の判定・通知が重要であることが、報告されました。

心臓突然死を防ぐための取り組みとして、浦添市の病院から簡易型心肺蘇生講習「PUSHコース」の普及に取り組んでいることが、日本学校保健会からはAEDの普及により学校管理下の心臓性および内因性突然死数が減少していることが報告されました。

第49回全国学校保健・学校医大会 第2分科会の後半

東山泉小中学校医 長村吉朗

鹿児島県鹿児島市で開催されました第49回全国学校保健・学校医大会での第2分科会の後半の概要を報告いたします。

当日第2分科会では第1演題から第7演題までが運動器検診に関してで、第2演題に林会長の発表がありました。私はそれ以外の後半の5演題に関して報告いたします。

7. 学校保健におけるスクールトレーナーの有効性
島根県 門脇俊
8. 豊島区立小中学校における過去8年間の骨密度測定結果から
東京都 猪狩和子
9. 広島市立学校における健康管理プログラム導入2年の現状と課題
広島県 永田忠
10. 徳島県における小児生活習慣病対策(肥満健診)の現状と今後の方向性について
徳島県 田山正伸
11. とうちにおける小児肥満予防対策と当科肥満外

来の25年 山形県 生駒尚子

第7演題は島根大学の試みですが、隠岐の島における試みで小学校27名と中学校32名に対する理学療法士による指導の試みですが、整形外科には余り好意的に受け入れられていないと感じられました。第8演題は牛乳の骨密度増加に対する効果を調べたものですが、女子では効果を認めたものの男子においては有意差を認められませんでした。第9~11演題は肥満に関してですが9演題では低身長の場合受診率は良かったのですが、肥満に関しては受診率は低いものになっていました。学校医会では西村理事による肥満と痩せのマニュアルの改訂版を作成中なのですが、他県でも一時下火になりかけていた肥満対策が問題になりつつあるようです。

以上簡単に内容を記載いたしました。抄録が必要な方は事務局まで御連絡下さい。

第49回全国学校保健・学校医大会 第3分科会

西京高等学校医 杉本英造

1. 学校メンタルヘルス理解はなぜ難しいか
三重県医師会
2. 教室内音環境が子どものメンタルヘルスに与える影響
東京都医師会
3. 広島県の特別支援学校における学校保健活動の推進について
広島県医師会
健診の際、逃げ回ったり、恐怖が強かったり、診療妨害で困ることがあり、工夫・留意が必要のため「特別支援学校 学校健診の手引き」を作成。広島県医師会ホームページから閲覧できます。
4. 発達性読み書き障害：診断されず対応もされていないことが多い
埼玉県医師会

Dyslexiaは例えば、ひらがな「く」「つ」「ち」が左右逆になったりして、字を読む(判別する)ことができず読めない。この児童にdyslexiaを理解・対応せず「君は他の人より読むのが下手だから」と努力を強要するのは無理解甚だしい。ホームページ「鳥取大学音読」を参考にして手立てを理解してほしい。大人になって困っている例もあります。

5. ゲーム・ネット依存傾向対策キャンプの効果について
秋田県医師会
「ゲーム障害」はICD:11版で精神・行動の障害として分類。ネット依存は過剰使用・離脱・耐

性・悪影響の4つの構成要素があり、キャンプでの認知行動療法により、自分で考える力や対話を養い、自身の感情・認知を知ることによって改善していく。

6. 学童期にみられる遺糞症 熊本県医師会
7. 小学校、中学校、新成人における喫煙への興味・喫煙行動の比較分析 和歌山県医師会
8. 学童以降の鶏卵、牛乳、小麦アレルギー除去例に対する「食べさせるアプローチ」 滋賀県医師会
9. 神奈川県医師会公衆衛生委員会にて実施した中学2年生を対象にしたピロリ菌検診と除菌に関するモデル事業

神奈川県医師会（横須賀・藤沢・厚木市）

1次スクリーニングとして尿中抗体検査。陽性者は2次：糞便検査で確定。28年度：1次陽性は8/163名（4.9%）、2次陽性は3/7名（1.8%）で3名とも除菌し、1次除菌成功2名、2次除菌成功1名で全員成功。29年度：1次陽性は43/751

（5.7%）、2次陽性16/42（2.2%）で13名が除菌し、1次除菌成功9名、2次除菌成功4名で全員成功。

10. 色覚検査に見る医会主導；色と色覚のアップデート 神奈川県医師会
色覚異常に気づかないまま進学し就職で制限され不利益となる。希望者に検査復活。
11. まちっこプロジェクト 千葉県医師会（松戸市）
松戸市教育委員会の協力で、「認知症」と「いのちの尊さ」について小中学校対象に出前講座を発足。2017年：15校・1887名受講。認知症をわかりやすく解説した冊子作成。私ども中京区でも地域包括支援センターと協働で中高生に認知症サポーター講座を行っており参考になりました。

演題1・2・6・7・8はこれまでも発表されてきており割愛します。抄録集は京都市学校医会事務局にありますので、ご興味のある方は事務局へお問い合わせください。

第7回 常任理事会

平成30年12月1日 於 事務局

出席者 林会長、井本・杉本副会長、山内専務理事、東道・安野・川勝・西村・中嶋各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村議長、長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 精神衛生研究会 11/8
2. 平成30年度京都市学校保健会研究発表会、表彰祝賀会・懇親会 11/10
14：00～研究発表会 於：京都市総合教育センター
17：00～表彰祝賀会・懇親会 於：からすま京都ホテル
3. 色覚相談 11/27 1名
4. 医療的ケア学校見学会 11/28
於：京都市立北総合支援学校
5. その他

<協議事項>

1. 肥満とやせの指導マニュアル改訂について
12/17に養護教育研究会と検討委員会
於：京都市総合教育センター 14：00～
2. 第33回京都市小学校「大文字駅伝」大会出務医について 2/10 参加校校医に出勤依頼中。
次回理事会で決定

3. 思春期保健対策ネットワーク会議について
1/17 於：京都市総合教育センター
16：00～ 京都市学校医会での取り組みは？
4. 平成31年総会講師について 4/20 於：木乃婦「だしに関するお話」 福島鯉株式会社様
講演時と交流会時、座席に変更があることをあらかじめ説明すべし
5. 運動器検診
・運動器検診後の受診調査(京都市)の結果
回答医療機関12 受診者数52名 異常あり31 (中嶋先生の報告)
・問診表の⑦⑧について、痛みの有無の項目を付け加えた方がよい
6. その他
校医ニュース 500号 何か特集を組むか…。

<関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 12/4, 12/18
2. 第33回京都市小学校「大文字駅伝」大会
事前健診 12/8, 12/15 林先生
3. 平成30年度 下半期ツベルクリン反応検査
12/10～ 於：醍醐西小学校、
京都市総合教育センター、鳳徳小学校
4. 精神衛生研究会 12/13
5. 平成31年一般社団法人京都府歯科医師会新年互例会
1/9 於：京都府歯科医師会口腔保健センター
6. 第8回常任理事会兼新年会 1/12 17：30～
常任理事会 於：室町和久傳
7. その他